

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0471300459
法人名	社会福祉法人 千葉福祉会
事業所名	グループホーム なごみ
所在地 (電話番号)	宮城県栗原市志波姫北郷大門87 (電話) 0228-22-2989

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 20 年 11 月 14 日

## 【情報提供票より】(平成 20年 10 月 30 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	15 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 15.9

### (2) 建物概要

建物形態	○併設/単独	○新築/改築
建物構造	木造	造り
	1階建ての	階 ~ 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	有( 円)	○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000円		

### (4) 利用者の概要(10月30日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名	
要介護1	2 名	要介護2	5 名			
要介護3	6 名	要介護4	4 名			
要介護5	1 名	要支援2	名			
年齢	平均	83.8 歳	最低	69 歳	最高	98 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	三浦医院・栗原中央病院・若柳病院・小田島歯科医院
---------	--------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

四季が感じられる雑木や田園風景も見られる住宅地の中にある。同じ敷地内には、同法人である社会福祉法人千葉福祉会が経営する特別養護老人ホーム・ショートステイ・デイサービスセンター・居宅介護支援センターがあり、地域の福祉施設ゾーンとなっている。昨年11月グループホームなごみにショートステイと共用型デイサービスを開設した。最初は不安もあったということであるが、入居者との関係も心配したほどのこともなくスムーズにいきっており、サービスの向上につながっている。大勢の中が苦手の方にはこのデイサービスが喜ばれているということである。対応などの気配りは必要であるが、ショートステイを受け入れることにより空室の不安が解消されている。入居者の身体的レベルが落ちてきているが、終末期の看取りの対応が充分とは言えないのが課題である。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価で指摘された3項目のうち①地域密着型サービスとしての使命をうたった理念に見直されている。②新しい理念に沿った活動に改善されている。③重度化や終末期に向けた方針の共有については尚一層の努力をしていただきたい。</p>
	②	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員に自己評価票を配り記入してもらい、話し合いをした結果をユニットリーダーと管理者がまとめた。できている項目と不十分な項目が浮き上がり、入居者の想いをくみ取ることの項目の改善点が見えたきたと同時に、対応の難しさがあるが努力していきたいと前向きに捉えている。</p>
重点項目	③	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>平成18年4月に第1回運営推進会議が開催されて以来、概ね2ヶ月に一度開催されている。今年度若干のメンバー入れ替えがあったが、メンバー構成は入居者代表・入居者家族代表・地域住民代表(区長)・栗原総合支所福祉課課長・民生委員・婦人会副会長と多彩な顔ぶれである。事業所からの報告と、メンバーからの家族旅行や畑作りなどについてのアドバイスをサービスに活かし、地域の活動に参加するなどの役割を果たして双方向の関係になっている。</p>
重点項目	④	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>公的機関の苦情受付機関・法人及び事業所の受付窓口・第三者委員を設け玄関先に掲示し重要事項説明書にも明記されている。意見や苦情があれば速やかに対応し、結果を本人に話すなど安心につなげる努力をしている。玄関に設置してある投書箱に苦情以外にも感想や職員への励ましの言葉等、家族の気軽な一言メモに活用していただければありがたい。</p>
重点項目	⑤	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域住民は事業所を法人の福祉施設のひとつとみなしているため、町内会に加入してはいないが農家で収穫した野菜の差し入れやボランティアの訪問・地域の行事への参加や清掃等活発な交流が図られている。法人全体の夏祭りには地域の方の参加もあり、300~400人位集まる盛大なイベントになっている。中学生の体験学習を受け入れ、焼き芋を皆で食べるほほえましいひと時を共有し、入居者の楽しみになっている。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての理念のほかに事業所独自の理念もあるが、共用型デイサービスとショートステイを開始したこともあり、昨年これまでの理念を見直して地域密着型サービスの意義をうたった理念をつくりあげた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を目につきやすい玄関に掲示し、職員は毎日確認し念頭において支援している。このほかに毎月状況に応じた目標を掲げ自己評価しながらサービスにつなげている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	民謡発表会や踊り・社会人の吹奏楽・オーケストラなどの地域の催しや小・中学生の行事に参加したり、あるいは芋掘りやぶどう狩りなど地域の方の好意により実現できている。農産物の差し入れをいただいたり、事業所の夏祭りに招待するなど相互に交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価の意味を理解している。自己評価することで日頃のケアの中での不足しているところなどの気付きを確認し、外部評価についても共通理解を図り改善する努力をしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政からの参加もあり多彩なメンバーでの運営推進会議は2ヶ月ごとに開催され、事業所を理解していただいている。議題を検討し、アドバイスのあった家族旅行を即実行し、サービスにつなげるなど、その経過を報告し双方向になされている。今後は交代で、職員全員の参加も検討しているということである。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議のメンバーでもあり、運営やサービスについて指導をいただいたり市主催の研修にも参加している。今後も行政との連携をとりながら、デイサービス・ショートステイのアピールと共に地域の社会資源としての役割を果たしていきたいという事なので期待したい。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に報告したり、請求書と共に日常の様子を知らせるお便りを添え、写真・金銭管理出納帳などを毎月送付している。重度化してきている方々もいるので、家族全員の参加とまでいなくてもクリスマス会など家族が集まる機会に、家族会の今後の活用の仕方を話し合いたいとしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	公的機関・法人・事業所・第三者委員とそれぞれ苦情相談窓口を玄関先に提示している。第三者委員の連絡先も、重要事項説明書にも連絡先を記載し、身近な相談者であることを家族に説明していただきたい。苦情があれば家族と話し合い、速やかな対応をするようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	できるだけ異動は抑えているが、異動があった場合にはお別れ会や新しい職員を入居者全員揃った時に紹介するなどの工夫をしている。家族への連絡も速やかに行われるように検討していただきたい。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は定期的に行われている。運営者と管理者は共に職員の資格取得にも理解があり、資格取得時には報奨金が支給されている。外部研修などにも目標を持って積極的に職員を参加させ、研修内容を共有することにより職員のスキルアップになり、サービスの質の向上につながっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム連絡協議会とNPO県グループホーム協議会に入会し、管理者だけでなく職員も研修会に参加している。他のグループホームとの交換研修もあり、意見交換をしたり見守りの工夫・引継ぎの仕方など参考になることも多くサービスにつなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホーム「なごみ」のデイサービス利用者がショートステイを利用することもある。家族に自宅での介護の様子を話してもらい、本人の不安な事や気がかりな事をじっくり傾聴している。また、ホームに家族と一緒に見学に来てもらい、入居者と一緒にお茶を飲んで顔馴染みになっていただく等の工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の得意分野を発揮して、お料理や掃除のコツ・細仕事等を教えてもらっている。また、職員が食欲がないようだと言っていると、その方の様子(職員の勤務時間外時の様子)を覚えてもらう事があり、感謝の言葉を述べ支え合う関係を築いている。		
<b>支えあう関係をきずいている</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のさりげない会話の中からヒントを得たり、お風呂でリラックスした時に本音が聞けることもある。意思表示が難しくなってきた方には家族からの意向を参考にしたり、目や顔の表情から理解するなど本人の気持ちに寄り添うよう工夫している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月一度カンファレンスを行っている。本人・家族の意向を取り入れ、担当職員が課題分析したものに基き、東京センター方式を一部取り入れた介護計画が作成されている。ケース記録からの転記で、「グループホーム入居者個別状態一覧表(リスク管理票)」を作成し新人職員にもわかり易い工夫がなされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月一度カンファレンスを行い本人の状態の変化があった時には見直しをしている。状態の変化が見られない入居者については、3ヶ月に1回の見直しはなされていない。	○	状態の変化が見られなくても、3ヶ月に一度定期的な介護計画の見直しを行い、家族にもその都度報告をしていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	昨年11月より開始されたデイサービスとショートステイは地域に貢献している。更に、入居者に対しても刺激になりよい関係が築かれている。通院の付き添い、馴染みの美容院での整髪、着物での外出、お墓参り、台風後の家の見まわり、移動図書館通い等、できる限りの支援を柔軟に行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にはかかりつけ医を受診し、職員が付き添っている。ホームに隣接の協力医は心強い存在であるが、内科診療だけなので必要に応じて紹介状を書いてもらい他の協力医をお願いしている。通院に職員が付き添い半日掛りになることもあり、その間他の入居者に差しさわりがいかに不安が残る。	○	かかりつけ医受診の支援は大切なことであるが、職員の数にも制限があるのも事実である。協力が得られ可能な方については、家族同行の方法を話し合う機会を設けて検討していただきたい。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの場合の協力医や常勤の看護師確保の問題もあり、終末期を迎えていると思われる入居者もおられるが、ターミナルの支援にまでは至っていない。	○	本人と家族の安心感に配慮し、早急な対応としてかかりつけ医等のケア関係者と話し合い、本人・家族の意向を確認しながら対応の方針の共有を図る事が大切である。また、現時点で事業所ができる終末期の対応を成文化すると共に意思確認書を作成し、早い時期から関係者全体の方針の統一が図れるよう検討していただきたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尊敬の念を持ち、名前の呼び方や口調などにおいても本人の視点に立ち、トイレ誘導するにもプライバシーに配慮したケアを行っている。書類の記録時の対応や、個人情報はより慎重な取り扱いをしていただきたい。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならないよう、一人ひとりの体調に配慮しながら一日の個々の生活リズムに合わせて対応している。希望する場合には、夜間のテレビも他の入居者の迷惑にならない程度に見ている。意思表示が困難な方については、寄り添い柔軟に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は定期的に配達され、栄養面に配慮した献立になっている。月に一度外食の日を設けたり、日曜日はフリー献立の日と決めて入居者の希望を取り入れた食事になっている。できる方には準備や片づけを手伝ってもらい、話しをしながらゆっくり楽しい食事をしていった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の半分以上の方が毎日入浴している。夜間入浴の支援はしていないが、昼に入浴することで贅沢感や満足を得ている方もいる。仲の良い方同士で入ったり、菖蒲湯やゆず湯など季節感を楽しめる工夫をし支援している。一般入浴が難しい方には法人の浴槽を利用することもある。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員が交代で活動の係りを担当してアイデアを出し、入居者の楽しみ事を支援している。訪問した日にはボール遊びで体を動かしていた。月毎の行事、外出・誕生会、移動図書館、手芸、料理、畑作り・将棋等で楽しんでた。縫い物が得意な方が雑巾を縫って、学校へ寄付して感謝されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望にできるだけ添う努力をしている。ドライブや買い物・散歩は日常的に出かけるが、体調に配慮し出かける方に偏りがないように支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ安全確保の意味で施錠するが、日中は掛けない。無断外出する方は見守りを徹底し、情報を併設のデイサービスに提供し、協力をいただいている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署指導の下、地域協力員(15名)の参加で夜間を想定した訓練を行っている。自動通報は消防署以外に役職員と地域協力員に入る。また、毎月水害以外の災害を想定した避難訓練を行っている。水と非常食の用意はあるが、薬(舌下錠等)のストックも検討していたら安心してはいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士が献立作成し、食事量など全体のバランスを管理している。食事量や水分摂取量を記録し、食事制限のある方にはカロリー・糖分・塩分の摂取量に配慮して、必要に応じてペースト食・刻み食の形態にした食事を提供し支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の中央にリビングがあり、天井が高く、天窓から柔らかい日差しが入る工夫がされている。セミパブリックスペースも確保され、手作りカレンダーや様々な手芸品が飾られて温かみを感じられた。コーナーに本やアルバムが置かれ、家族が見やすい工夫をしていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きいガラス窓から明るい日差しが降り注がれて暖かい。家族から協力を得て、馴染みの家具や花・カーペット・ソファなどを持ち込み個人的でゆったりとした自分らしい部屋になっている。家族の写真が飾られたり、お位牌が置かれた居室もあった。		